

10

豪雨時における住民の危機意識・対応行動

本章では、東海豪雨災害において避難勧告が発令されなかった名古屋市天白区を事例として、9月11日午後6時から午後8時の豪雨が降り続く状況下における住民の危機意識と対応行動の実態を把握する。なお、本章での集計の内容や方法については前章と同様である。

10.1 豪雨時（9月11日午後6時～8時）の住民の所在

ここでは、9月11日午後6時から午後8時の豪雨時における回答者の所在を把握する。

- ・全体の約74%の住民が在宅していたとの回答を示している。また、午後6時～8時という時間帯では、まだ勤務先にいた、移動中であったとする回答も相当数みられる。

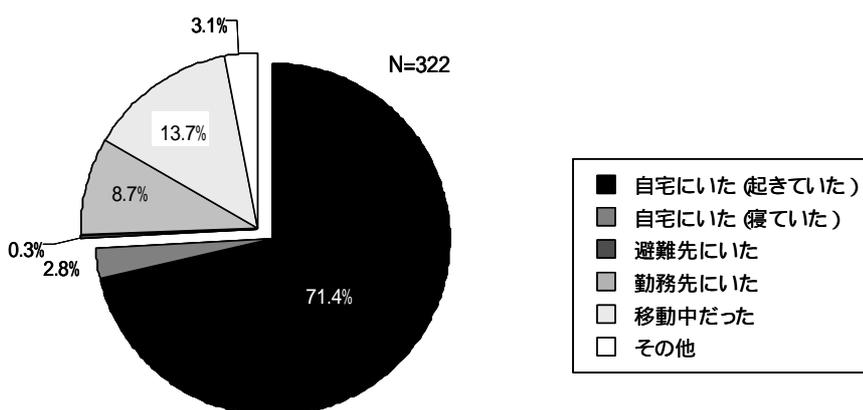


図 10-1-1 豪雨時の住民の所在（名古屋市天白区）

10.2 豪雨時（9月11日午後6時～8時）における住民の危機意識の実態

Point ・半数以上の住民は、身に及ぶ危険について意識していなかった。

ここでは、自宅にいたと回答を示した住民を対象として、自宅にいた住民の危機意識ならびに、対応行動の実態について把握する。

豪雨時における住民の危機意識の実態を図10-2-1に示す。

- ・ 半数以上の住民は、身に及ぶ危険に関して意識しなかったことがわかる。また、危険を意識した住民においては、その60%以上が身の危険を感じているが、意識した上で危険はないと感じた住民も相当数存在している。

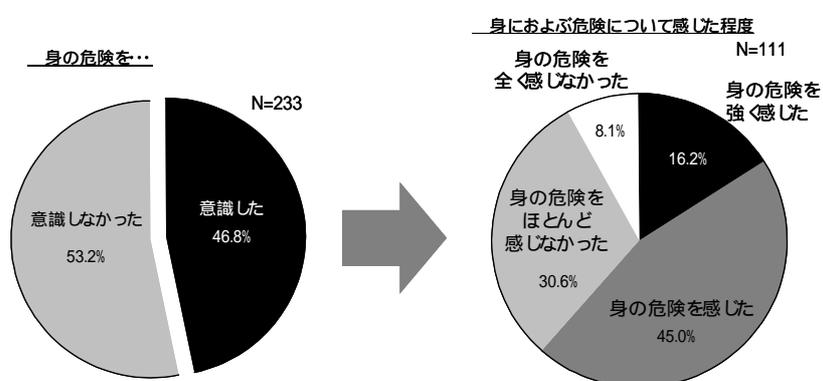


図10-2-1 豪雨時における住民の危機意識（名古屋市天白区）

10.3 豪雨時（9月11日午後6時～8時）における今後の事態想定とそれに対する危機意識の実態

Point

- ・多くの住民は今後の浸水について意識したが、その半数以上は浸水しない、もしくは床下程度の浸水を想定していた。
- ・想定した今後の浸水に対し、多くの住民は危機感を抱いていなかった。

図 10-3-1 は、豪雨時における今後の浸水に関する事態想定とそれに対する危機意識の実態について集計したものである。なお、図の内容は 9 章 3 節で示したものと同様である。

- ・66%以上の住民は今後の浸水に対し意識したと回答しているが、意識した住民の60%以上は浸水しないもしくは床下程度の浸水までしか想定していなかったことがわかる。
- ・想定した浸水に対して感じた危機意識の実態についてみると、1階の高いところもしくはそれ以上浸かるといった住民を除き、半数以上の住民が今後の浸水に対し危機感を抱いていなかったことが読みとれる。

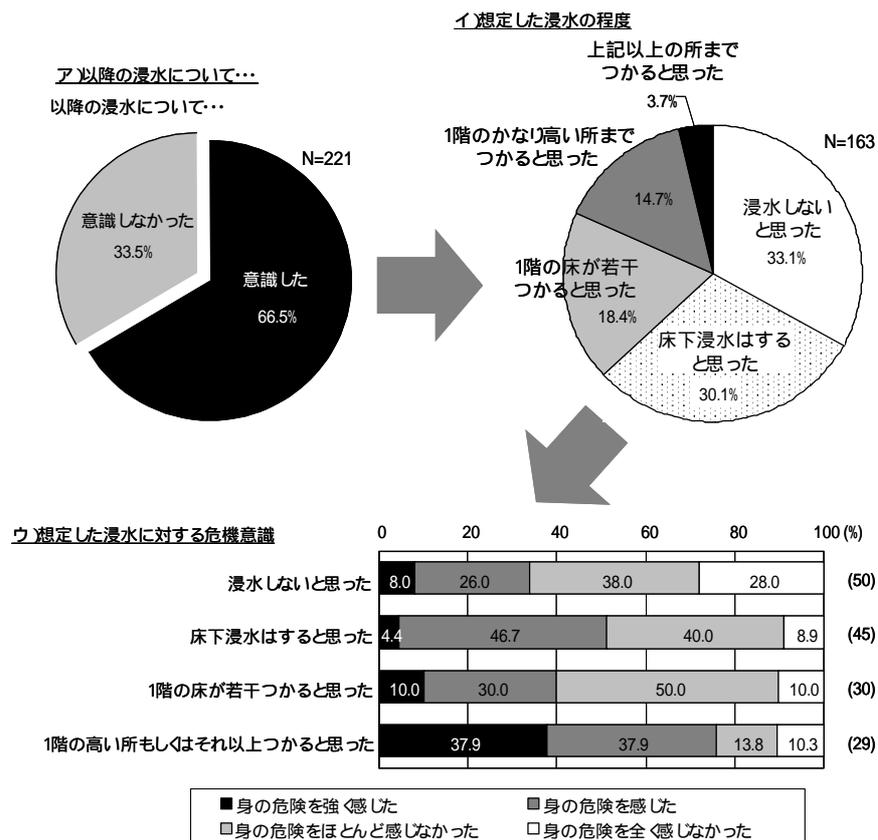


図 10-3-1 豪雨時における今後の浸水に関する事態想定とそれに対する危機意識（名古屋市天白区）

10.4 豪雨時（9月11日午後6時～8時）における避難の必要性に対する意識の実態

Point

- ・多くの住民が避難の必要性に関して意識しなかった。
- ・身の危険を感じた、以後床上浸水すると思ったという住民においても、その40%程度は避難の必要性を意識しなかった。

図 10-4-1 は豪雨時における避難の必要性に対する意識の実態をみたものであり、図 10-4-2 は避難の必要性に対する認識と危機意識、以後の浸水に対する事後想定との関係をみたものである。

- ・図 10-4-1 から、避難の必要性を意識しなかった住民が多く存在し、その割合は 68% にのぼっている。また、図 10-4-2 より、このとき身の危険を感じた、以後床上浸水すると想定した住民についてみると、その半数以上は避難の必要性を感じているものの、40%以上の住民が避難の必要性を意識しなかったもしくは感じなかったと回答している。

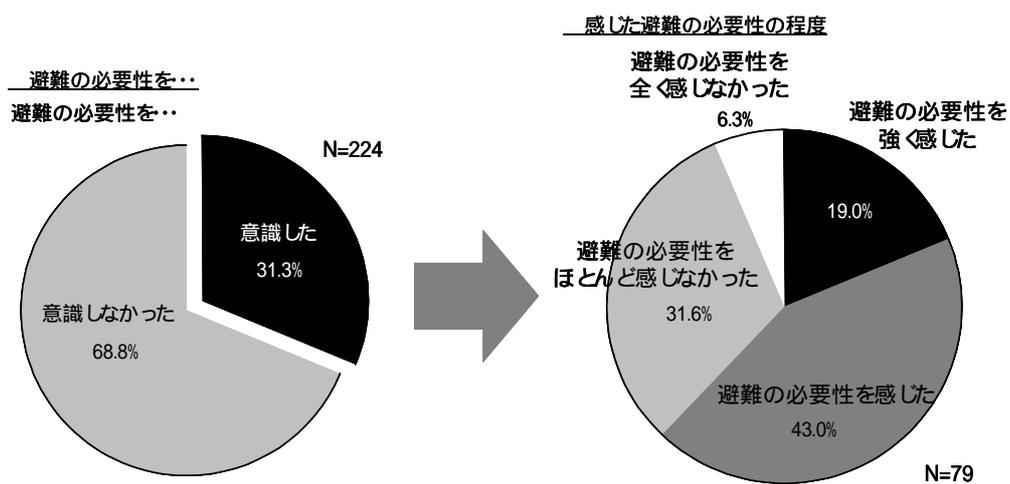


図 10-4-1 豪雨時における避難の必要性に対する意識（名古屋市天白区）

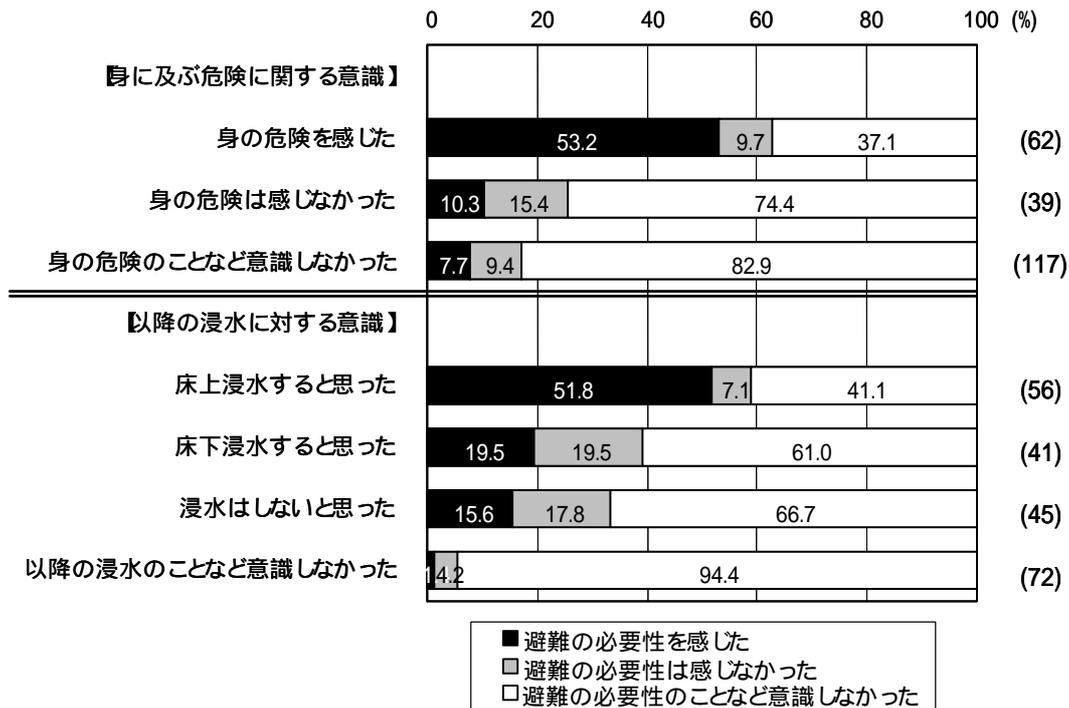


図 10-4-2 豪雨時における避難の必要性に対する意識（名古屋市天白区）

10.5 豪雨時（9月11日午後6時～8時）の住民の水害に対する対応行動

Point

- ・ほとんどの住民が、自ら外の様子や浸水状況を確認、あるいはテレビやラジオによる情報収集を行い、現状を積極的に把握しようとしている。
- ・避難や避難の準備よりも、家財や家屋の保全を多くの住民が行っている。

図 10-5-1 に、豪雨時における住民の対応行動の実態を示す。

- ・ほとんどの住民が自ら外の様子や浸水状況の確認を行ったり、テレビやラジオにより情報を収集するなど、状況の確認行動を積極的に行っていたことがわかる。
- ・避難や避難の準備よりも家財や家屋の保全を行なったとする住民の割合が多く、約 40%の住民が家財を2階など高いところへ上げたと回答を示している。
- ・家族や親戚等との連絡をとった住民は、60%に及ぶ。

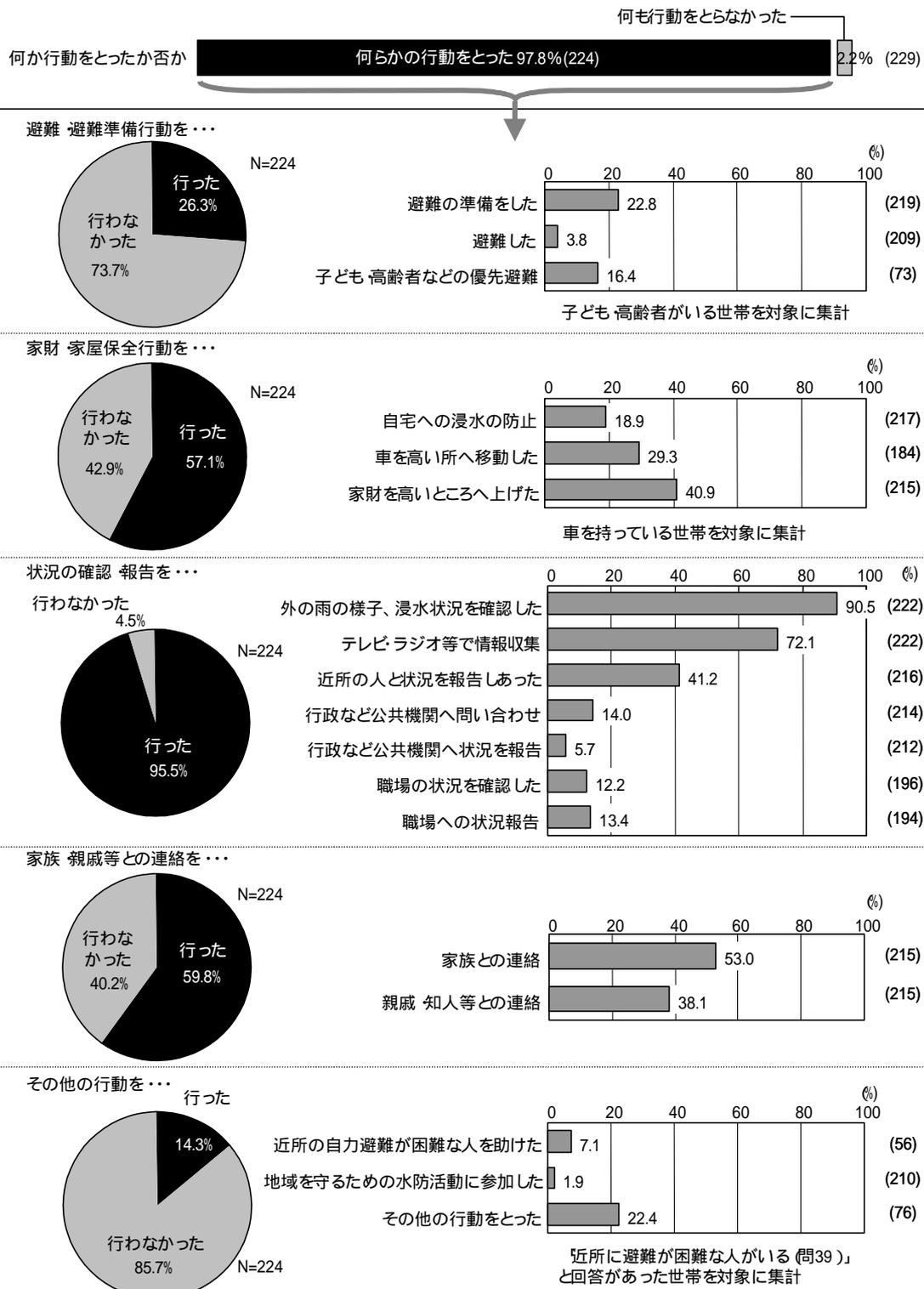


図 10-5-1 豪雨時における住民の対応行動（名古屋市天白区）

10.6 豪雨時（9月11日午後6時～8時）における避難（経路）に対する危険意識の実態

Point

・ほとんどの住民が外を歩くことに対して何らかの危険を感じていた。

図 10-6-1 は豪雨時（9月11日午後6時～8時）において、家の外を歩くことに対し住民がどの程度の危険を感じていたかを示したものである。

- ・9月11日午後6時～8時は雨が最も強く降った時間帯であり、4章4.4節の浸水過程についてみても、この時間帯から床下ならびに床上浸水が始まったと回答を示す世帯が急激に増えている。このような状況を踏まえた上で図 10-6-1 をみると、多くの住民が外を歩くことに対して危険を感じており、その割合は80%にのぼっていることがわかる。

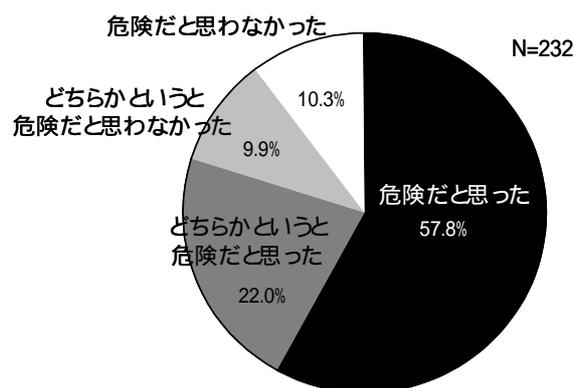


図 10-6-1 豪雨時において外を歩くことに対する危険意識（名古屋市天白区）

10.7 豪雨時（9月11日午後6時～8時）における周辺住民との関わり

Point

- ・半数以上の住民が近所の人への避難実態について把握していたが、わからなかったとする住民も40%以上存在している。
- ・避難の勧誘をした人は、家族や消防団の人よりも、近所の人であったとする回答が多い。
- ・避難を勧めた人がいたにも関わらず、60%近くもの住民は避難の必要性を感じなかった、もしくは避難の必要性を意識しなかったと回答を示している。

図10-7-1は近所の人への避難状況、およびそれと避難の必要性に対する意識との関係を見たものである。

- ・半数以上の住民は近所の人への避難状況について把握していたが、把握していなかった住民も相当数存在しており、その割合は40%を越えている。また、近所に避難している人がいることを知っていたにも関わらず、避難の必要性を感じなかった、もしくは避難については意識しなかったとする住民が60%近く存在している。

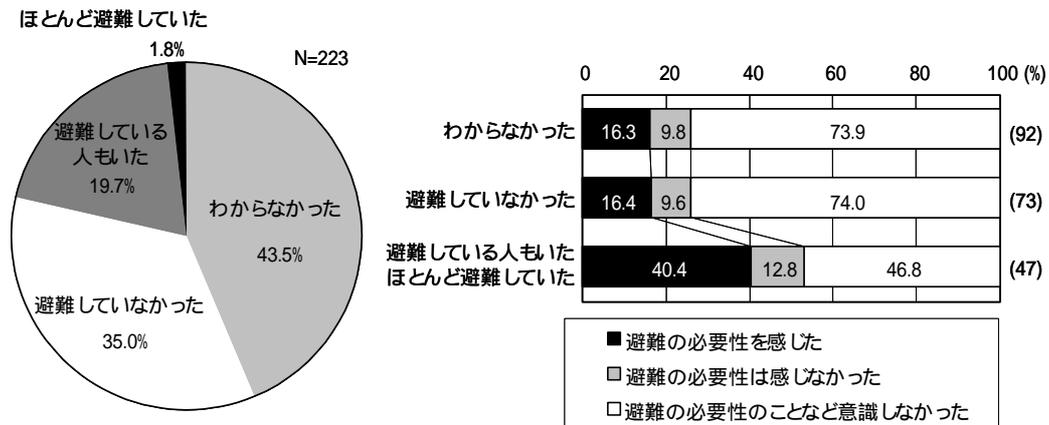


図10-7-1 豪雨時における近所の人への避難状況（名古屋市天白区）

図 10-7-2 は避難の勧誘の実態をみたものである。

・避難を勧誘してもらった住民は 20%以下であり、前章と比較すると顕著に少なかったことがわかる。

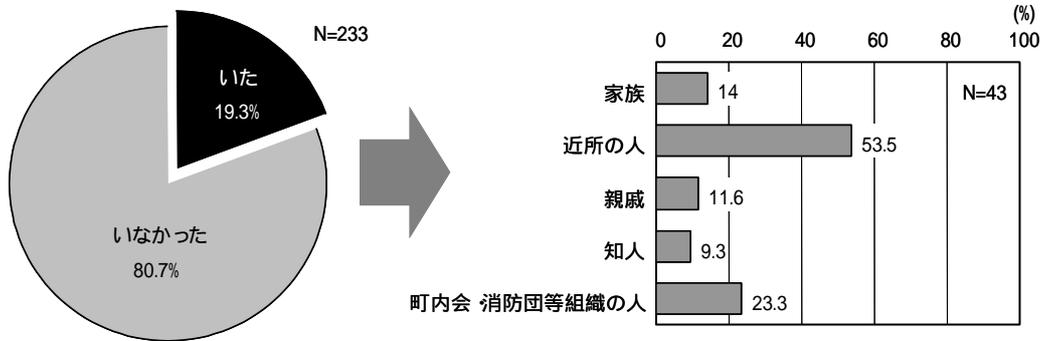


図 10-7-2 豪雨時における避難の勧誘の実態 (名古屋市天白区)

図 10-7-3 は避難の勧誘と避難の必要性に対する意識との関係をみたものである。

・避難を勧めてくれた人がいたにも関わらず、そのときに避難の必要性は感じなかった、避難を意識しなかったという住民は 60%近くにもものぼっている。

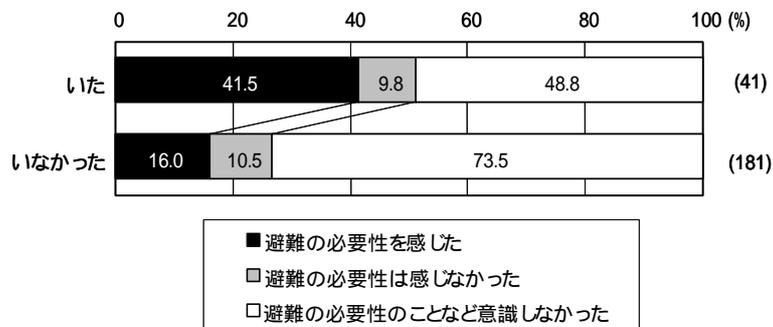


図 10-7-3 豪雨時における避難の必要性に対する意識と避難の勧誘との関係 (名古屋市天白区)

10.8 豪雨時(9月11日午後6時~8時)において欲しかった情報と得られた情報

Point

- ・情報ニーズとして割合が多いのは、以後の降雨や浸水の進展の見通し、河川や浸水の状況、排水ポンプの稼働状況に関する情報である。
- ・全ての情報に関して、それが取得できたとする住民の割合は極端に低い。

図 10-8-1 より、豪雨時において自宅にいた住民の情報ニーズについてみる。

- ・9章8節での結果と同様に、河川や浸水の状況、降雨や浸水の見通し、浸水被害の状況に関する情報を欲していたことがわかる。それらの情報に加え、この地区においては、ポンプの稼働状況に関する情報を欲していた住民が多いことが特徴的である。
- ・情報の取得実態は、情報のニーズと比較してその割合は極端に低い。

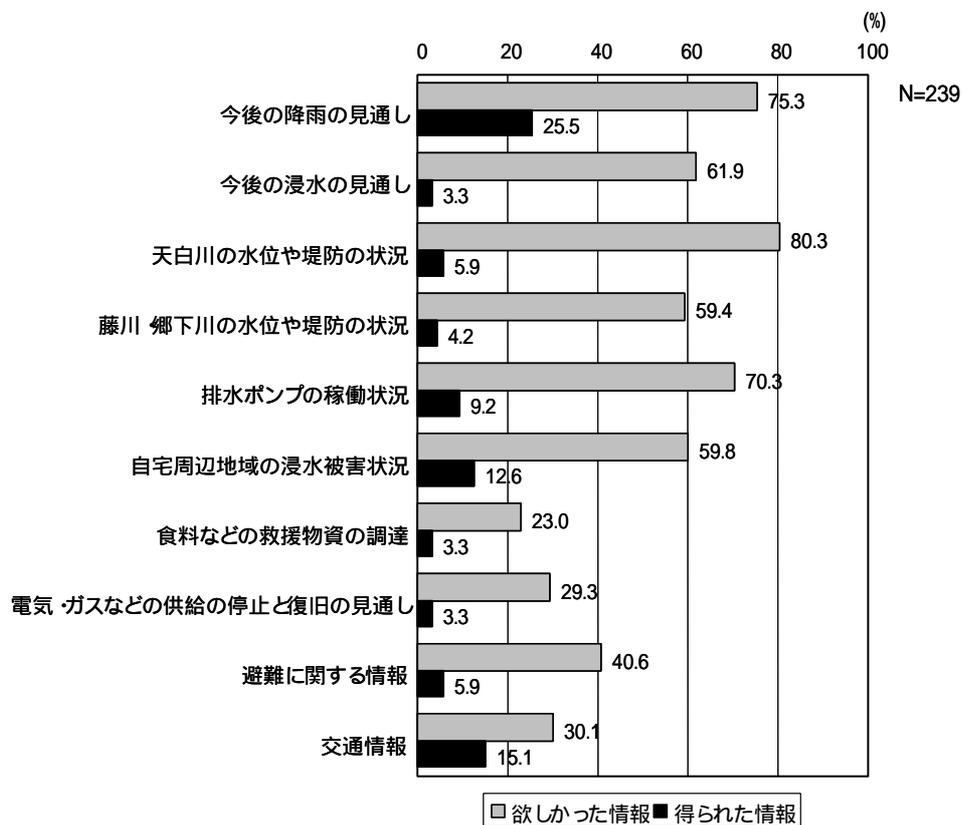


図 10-8-1 豪雨時における自宅にいた住民の情報ニーズと情報取得実態（名古屋市天白区）